

診療科の ご紹介

産婦人科

有機的な連携で「思いやり」のある診療を



産婦人科

上段左から

久保光太郎
第二産婦人科副部長

谷村 吏香
医師

玉田 祥子
第二産婦人科副部長

中山 朋子
第一産婦人科副部長

河合 清日
第二産婦人科副部長

下段左から

楠元 理恵
医師

田中 佑衣
専攻医

関 典子
第二産婦人科部長

水谷 靖司
院長補佐・第一産婦人科部長

小高 晃嗣
医師

別枠 左

西條 昌之
医師

別枠 中

平田 智子
医師

別枠 右

清元 志保
専攻医

● 受診についてのご注意 ●

産婦人科医師の不足、常に母体救急に対応する周産期センターとしての責務を果たすなどの理由で、現在、産婦人科は完全予約制をとっています。必ずかかりつけ医から地域医療連携課を通してFAX予約を取ってから受診してください。

FAX予約を取られてない場合は、紹介状を持たれて来院されても、空いているFAX初診の日に来院しなおして頂く場合がございます。もちろん、病状から判断して、診察を急ぐ必要がある場合はこの限りではございません。

▶ 当科のモットー

- 「思いやり」のある診療を目指しています。
- 人が感じるすべての苦痛「全人的苦痛」に耐えることのない診療を目指しています。
- 病状や治療法を十分かつ丁寧に説明し、「インフォームドチョイス」を心掛けています。
- 他職種・他科との有機的な連携をはかり、安全・安心な医療を目指します。
- 手術の合理化をはかり、低侵襲手術（腹腔鏡手術やロボット支援下手術など）を積極的に実施します。

▶ 診療スタッフ

2023年12月現在、13名のスタッフが診療に携わっています。

▶ 当科で対応可能な診療分野

産婦人科の診療は「周産期」「婦人科腫瘍」「生殖内分泌」「女性ヘルスケア」と4つの専門領域に分けられます。

「周産期」は妊娠・出産が専門であり、当院が最も得意としている分野です。特に当院は兵庫県で7施設のみ指定を受

けた総合周産期母子医療センターであり、なんらかの合併症をもっている妊婦さん（ハイリスク妊婦といえます）に対し、病気に関係する他の診療科や病院内の多くの職種の方と協力して高度で安全安心な医療を提供しています。周産期センターには1名以上の専任医師が常在しており、24時間365日、かかりつけの妊婦さんだけでなく、他施設からの母体搬送や母体救急の対応などに携わっています。もちろん合併症のない妊婦さん（ローリスク妊婦）のお産も大歓迎です。

「婦人科腫瘍」は子宮筋腫などの良性腫瘍の治療と悪性腫瘍、すなわち、がん治療の専門分野で、手術、薬物療法（抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤、分子標的薬）、放射線療法をそれぞれ単独もしくはそれらを組み合わせて専門的な治療を行う分野です。この領域も当科が得意としており、婦人科腫瘍専門医が中心となって診療にあたっています。また、この分野での治療の基本は腫瘍摘出であるため、産婦人科の中で、最も大きな手術を行います。近年、内視鏡の進歩により、患者さんの負担の軽い手術も広まってきています。当院では2名の婦人科内視鏡専門医を中心に積極的に内視鏡手術を導入し、実績を上げています。さらに、当院は手術支援ロボット「Da Vinci」を2台有しており、この手術を行う資格をもっている産婦人科医師2名が手術に携わり、年々手術数が増えています。

「生殖内分泌」は月経異常や不妊症などの治療を行う分野です。当科は体外受精などの高度な不妊治療は行っておりませんので、専門医に紹介させていただきます。

「女性ヘルスケア」は月経に伴う症状や更年期症状など、思春期、性成熟期、更年期・老年期の生涯にわたる女性のヘルスケアの向上のために寄与する分野です。また高齢女性に起こりやすい、子宮が腔から飛びだしてしまう子宮脱の治療はこの分野です。

▶ 妊娠・分娩の多様化に向けての取り組み

女性の最も大きなライフイベントのひとつである“妊娠・出産”。近年、日本ではそのスタイルが多様化してきています。当院ではそのニーズに対応すべく以下の妊婦健診・分娩スタイルがあります。ご自身の希望に完全にあてはまるものはないにせよ、ご自身が思い描くスタイルを選んで頂ければと考えております。簡単に紹介しておきます。

①地域連携分娩：ふだんの妊婦健診をお近くの産婦人科（分娩をしていない施設）でして頂き、お産は当院で行うスタイル、いわば里帰り出産の地域版のようなものです。かかりつけの医院が夜間や休日に対応できないときは、当院で対応します。

②地域連携無痛分娩：かかりつけの産科で無痛分娩をしてない場合、あなたが無痛分娩を出産近くで希望された際に、かかりつけ医から紹介してもらい、当院で無痛分娩をするスタイルです。麻酔科スタッフ、当院産科医師、助産師で出産をサポートします。

③無痛分娩：当院の無痛分娩は、硬膜外もしくは脊椎麻酔を用いた和痛分娩（完全に痛みをなくすものではありません）で、除痛のプロである麻酔科医が行います。詳細はホームページをご覧ください。

④助産師外来・院内助産：緊急時の対応が可能な病院などの医療機関内で医師との連携をもとに、ローリスク妊婦さんに対し、熟練助産師を含む専属の助産師チームが主体となって妊婦健診・保健指導・分娩介助を行うシステムです。お子様が分娩に立ち会うことができますし、フリースタイル分娩も行っています。緊急時や必要時には医師がすみやかに対応しますので、助産所での「自分に合わせたナチュラルな」出産と病院での「必要な時に医師がすみやかに対応する安心な」出産という双方のいいところ取りをした出産スタイルです。

院長補佐 兼 第一産婦人科部長 水谷 靖司

膀胱がんに対する光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術(PDD-TURBT)を開始しました

姫路赤十字病院では2023年10月に膀胱がんに対する光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術（PDD-TURBT）を開始しました。

筋層非浸潤性膀胱がんは、未治療の膀胱がんの約7割を占め、通常、初期治療として経尿道的膀胱腫瘍切除術（以下 TURBT）による膀胱温存を目指した治療を行います。しかし、筋層非浸潤性膀胱がんは、TURBT施行後、5年以内に膀胱内に再発することが多く、再発を繰り返すうちに浸潤性のがんに進展し、生命予後が不良となることがあります。

光線力学診断経尿道的膀胱腫瘍切除術（以下PDD-TURBT）は、膀胱腫瘍の診断・治療・再発予防を目的として、アミノレブリン酸製剤（アラグリオ：SBIファーマ株式会社）を用いた光線力学診断（PDD：photodynamic diagnosis）を併用する経尿道的膀胱腫瘍切除術です。

PDD-TURBTは膀胱再発率の低下につながることから、膀胱がん診療ガイドラインにおいても最も高い推奨度（推奨の強さ1・エビデンス確実性A）にて位置づけられています。

当院泌尿器科では、より良い膀胱がん治療を広くお届けできるように、安全面に配慮し、チーム医療で治療を行ってまいります。



がんについてもっと知ろう!市民講座「がんの低侵襲治療について」

2023年10月26日（木）地域住民の皆様を対象に、がんの低侵襲治療について講演会を開催しました。筑木第三消化器科部長による「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）」、武本第一放射線科部長による「高精度放射線治療」、甲斐副院長による「ロボット支援手術 肝臓がん」と、それぞれの分野の最先端の治療についてのお話でした。

参加者からは「医療の進歩がよく理解できた」「安心して治療を任せられると思った」という声を頂きました。

次回は2月17日（土）「がんと遺伝について」というテーマでアクリエ姫路にて開催予定です。

がん診療連携課 井上 豊子



第53回

がんについてもっと知ろう!市民講座

がんと遺伝の関係
「わたしががんは遺伝しますか? 家族のがんは遺伝しますか?」

2024
2/17(土)
14:00~16:00

アクリエひめじ 会議室407-408
(姫路市文化センター)

参加費 無料

14:00 開会挨拶
14:05 企画のご挨拶
14:10 講演1 知ろう! 遺伝性がん腫瘍がんのこと
14:45 講演2 教えて! 遺伝性がんのこと
15:20 休憩
15:30 講演3 姫路赤十字病院の取り組み
15:50 質疑応答
16:00 閉会挨拶

主催：姫路赤十字病院 後援：姫路市 姫路市医師会 兵庫県がん診療連携協議会
協力：厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進事業 がん対策推進協議会
（がん対策推進協議会）がん対策推進協議会 がん対策推進協議会 がん対策推進協議会

電話 079-2094-2051 (代) 平日 9:00~18:00

← お申し込みはこちら

※会場の都合により先着100名まで。定員に達し次第、締切とさせていただきます。

令和5年度 第八管区海上保安本部 巡視船みうら合同訓練に参加

令和5年9月28日（木）13時より「海上保安庁と日本赤十字社との業務協力に関する協定」（平成27年3月6日付）に基づき、今後発生が予想される「南海トラフ地震等」の大規模災害において、日本赤十字社兵庫支部と第八管区海上保安本部が協力し、迅速かつ円滑な災害医療体制の確立及び連携強化を図ることを目的とし、京都府舞鶴市の海上保安学校において合同の訓練が実施されました。

姫路、神戸、多可の各赤十字救護班により、船への救護資器材の搬入、搬出や傷病者受け入れのための船内救護所設営と傷病者対応が行われ、昨年度の訓練より、さらに充実した訓練となりました。

次年度も、海上保安庁との連携強化に向け姫路赤十字病院の救護班も積極的に参加する予定です。

社会課 大西 勝彦



令和5年度 姫路市総合防災訓練・国民保護訓練に参加

令和5年10月1日（日）『10月1日午前10時に南海トラフ地震が発生した。』との想定で姫路市総合防災訓練が開始されました。

例年の訓練では、姫路市内の広い敷地内を使用して防災関係団体が集まった訓練で、広く市民の方に実際の訓練にふれる機会が少なかったことから、今年度は開催日程、開催場所も大きく変更され、訓練がより実践に近づいた企画となり、大手前公園やJR姫路駅周辺、白鷺小中学校、姫路港など市内の広範囲で行われ、大掛かりな訓練となりました。

当院からはJR姫路駅北側にぎわい広場にて応急救護所を設置し、救護班2個班と臨床研修医を含め17名がトリアージや応急処置を行いました。

また、11時からは国民保護訓練に移行し、キャッスルガーデンでサリンが撒かれたとの想定で除染作業が行われ、同様に救護にあたりました。

休日の昼間で多くの市民や観光客が見守る中での訓練で赤十字の救護活動をご覧いただけたかと思います。

社会課 大西 勝彦



リハビリテーション技術課の「さわやかさん」たち 早期退院を支援しています

リハビリテーション技術課のお仕事

急性期リハビリを担当する当課では、医師、看護師など多職種と連携し、リハビリの必要な患者にもれなく早期より連続性のあるリハビリを提供し、早期退院を支援するとともに、継続したリハビリが必要な場合は、回復期・維持期施設に切れ目なくつなげるように努めています。スタッフは、リハビリ専門職の理学療法士（PT）12名、作業療法士（OT）6名、言語聴覚士（ST）2名となっています。リハビリ業務の専門化・細分化が進む中で自己研鑽に励んでおり、各種認定資格を取得した者が多数在籍しています。

対象となる患者さんは、赤ちゃんからご高齢の方まで幅広い患者層となっており、運動器、脳血管、呼吸器、循環器、新生児・小児、がん疾患など全診療科・全病棟に渡っています。近年では内科、外科系の消化器、造血器がん、がんに伴う廃用症候群の増加が顕著となっています。早産児および極低出生体重児においては、NICU・GCU入院中から外来に至るまで定期的に評価・フォローアップを行い、神経学的な発達の支援をしています。

横断的チーム医療の関わりとして、栄養サポート、口腔ケア、呼吸ケアサポート、緩和ケア、糖尿病療養支援、排尿ケア、認知症ケア、骨リエゾンなど、チームの一員として活動しています。また、ICUでは早期離床・リハビリチームにおいて、専任の理学療法士を配置し、ICU入室後48時間以内に、早期からリハビリ介入しています。その他、日本赤十字リハビリ協会、兵庫県理学療法士会、兵庫県作業療法士会、社団法人アスリートケアなど各種団体の運営スタッフとしての活動や春夏の高校野球甲子園大会、全国高校軟式野球大会、姫路城マラソンなどメディカルサポートのスタッフとして、スポーツ障害の予防にも取り組んでいます。

リハビリテーション科部 皮居 達彦



理学療法士（PT）



作業療法士（OT）



言語聴覚士（ST）

感染症予防の徹底を続けましょう

毎年、空気が乾燥する冬の時期は、インフルエンザをはじめ、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎等、新型コロナウイルス以外の感染症も流行します。ウイルスによる感染症の予防法は、新型コロナと基本は同じですから、気を抜かず、このまま継続していきましょう。

感染管理室 八瀬 和住恵

受診するときは

- マスクを着用



新型コロナ予防のための「新しい生活様式」

- こまめな手洗い・手指消毒
- 咳エチケットの徹底
- こまめに換気
- 身体的距離の確保
- 3密（密集・密接・密閉）の回避
- 健康管理（発熱や風邪の症状がある場合は無理せず自宅療養）

プラスしたい感染予防

- インフルエンザは早めの予防接種を！
特に、乳幼児や高齢者、基礎疾患のある方など重症化する恐れのある方は、予防接種を受けた方が良いか、かかりつけ医にあらかじめ相談し、ワクチンがある感染症の場合は予防接種でリスクを減らしましょう。
- ノロウイルスは調理に注意！
十分に加熱を
ノロウイルスへの感染は、人からの他に、カキをはじめ、アサリやホタテ貝などの二枚貝を食べることで起こります。ノロウイルスが活性化する冬には二枚貝はもちろん、生食はできるだけ避け、中心まで十分加熱して食べるようにしましょう。

リハビリテーションだより

ロコモティブ
シンドローム

運動器の障害のために移動能力の低下をきたした状態「ロコモティブシンドローム」を予防する運動「ロコトレ（ロコモーショントレーニング）」を紹介します。

寒い季節になると屋外運動が億劫になりますが、自宅でも簡単にできるので、生活の一部に取り入れて健康寿命の延伸を目指しましょう。

● ヒールレイズ（ふくらはぎの筋力をつける）

ふくらはぎの筋肉は、腓腹筋とひらめ筋という二つの筋肉で構成されています。姿勢を保持する抗重力筋として働くとともに、歩行時の推進力に大きな力を発揮します。また、筋肉が収縮することで血管を圧迫し、足先から心臓の方へ血液を戻すポンプの役割を持ち、第二の心臓とも言われています。足の冷え・むくみの防止にもなります。

《方法》

1. 両足で立って踵を上げ、ゆっくりと床に踵を着けていきます。踵を上げ過ぎるとバランスを崩すことがあるので注意してください。
2. 繰り返し10～20回を1日2～3セット行いましょう。

* バランスに不安のある方は椅子の背もたれや壁に手をつけて行いましょう。



～ロコモ体操 | 健康長寿ネット (tyojyu.or.jp) ロコモ体操 より引用～



看護部だより

患者さんのニーズに合った看護を

進化し続ける 6 階西病棟の今

6 階西病棟 齋藤 知子

6 階西病棟は、令和 4 年 1 月より 6 階東病棟とともに消化器センターになりました。消化器外科・内科の混合病棟で、消化器疾患の患者さんが入院されています。おもに手術や内視鏡治療、抗がん剤治療などの治療を受けています。手術は、腹腔鏡下で行う胃・腸・肝臓・脾臓等の手術に加え、ロボット支援下で行う手術も増えてきました。患者さんの身体への負担を減らし、回復力を促進させる手術療法の進化に伴い、看護師は合併症予防に努めています。

R5 年から、膵内分泌腫瘍に対して PRRT 療法

(ペプチド受容体放射性核種療法)を導入しています。この治療は兵庫県下で 3 施設目となる新しい治療になります。他職種とともに治療導入を進め、体制を整えることができました。

その一方でがんの終末期を迎える患者さんもおられます。緩和ケアチームやリエゾンチームと協力し、一緒に患者さんをサポートできるよう、カンファレンスをしたり一緒にラウンドを行っています。患者さんのニーズに合った看護が提供できるように日々努力をしています。



検査技術部だより

大きな節目を迎えたコロナ対策

「5 類感染症」移行について

検査技術部 春名 勝也

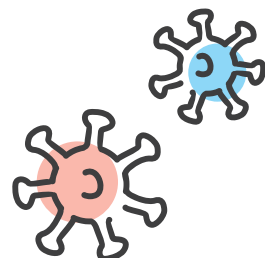
本年 5 月 8 日から新型コロナウイルスは「5 類感染症」に位置づけられました。

検査技術部で行っている新型コロナウイルスの検査においても患者様の入院時検査など検体採取～検査の数において大きく様変わりしました。

固い話で恐縮ですが「5 類感染症」移行について少し触れてみましょう。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を、5 類感染症に変更するための議論が政府内で行われ、感染症法 (感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律) が定める感染症の 5 類型のうちの 1 つで、感染力や重篤性などに基づく総合的な観点からみた危険性が最も低いとされるもの「5 類感染症」に分類されました。季節性インフルエンザや麻疹、風疹、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症などの一般的な感染症がここに分類されています。「5 類感染症」に位置付けられた経緯については、感染者の全数把握と追跡により保健所の業務負担が高まったことや、入院先が指定医療機関に限定

されていたため、一部の医療機関や従事者への負担が集中するなどの問題点が生じていたこと、重症化率や死亡率が低いオミクロン株の流行になっていること、ワクチン接種率の上昇や軽症者にも使用できる経口薬の登場などにより季節性インフルエンザと同等の扱いが可能となる条件が整ってきたこと、などが背景にあると考えられます。国や自治体による検査、ワクチン、治療の補助が行われていましたが、その動向にもいろんな影響が出ています。

法律に基づいた外出自粛の要請などはなくなり、感染対策は個人の判断に委ねられるほか、幅広い医療機関での患者の受け入れを目指すなど、3 年余り続く国のコロナ対策は大きな節目を迎えています。



さわやかだより

各部・各課のスタッフから健康や医療の情報について紹介します。



薬剤部だより

くすりの情報はまとめて 1 冊のお薬手帳に!

ポリファーマシーって何?

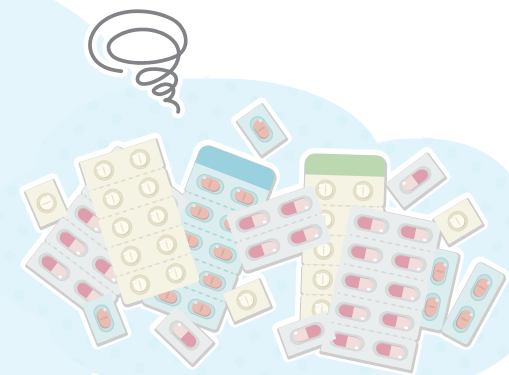
薬剤部 玉田 智子

ポリファーマシーとはポリ (Poly: 複数の)、ファーマシー (Pharmacy: 調剤) を合わせた言葉で、多剤服用などと訳されます。単に服用する薬の数が多いことではなく、**多くの薬を服用しているために副作用を起こしたり、飲み間違いや飲み忘れなど、きちんと薬が飲めなくなったりしている状態**をいいます。

高齢になると複数の持病を持つ人が増え、通院する医療機関や服用する薬の数も多くなります。75 歳以上の高齢者の約 4 割が 5 つ以上の薬を飲んでいるとも言われています。

また、高齢になると肝臓や腎臓の働きが弱くなり、薬を分解したり排泄したりするのに時間がかかるようになるため、薬が効きすぎたり副作用が起きやすくなったりします。服用する薬が多くなればなるほど、薬と薬の相互作用がおこる可能性も高くなります。

ポリファーマシーを防止するため、くすりの情報は 1 冊のお薬手帳にまとめ、自身の薬について各医療機関へ積極的に情報共有をしましょう。また薬を服用して異変を感じたらかかりつけ医、かかりつけ薬局に相談してください。



栄養課だより

お鍋で代謝を上げよう!

代謝を上げる食材と気をつけたいこと

栄養課 高橋 佳恵

朝晩ともに寒くなり、お鍋の恋しい季節になりました。冬の寒さで冷えた体を温め、代謝を上げてくれるお鍋について、おいしく食べるポイントを紹介します。

①代謝を上げる食材

ショウガやニラ、唐辛子は体を温め、代謝を高めてくれます。また、豚肉や豆乳に含まれるビタミン B1 も糖の代謝を高めてくれるのでおすすめです。代謝が上がると、エネルギー消費量が増え、痩せやすい体質に改善されたり、血流がよくなることで筋肉のこりや冷え症状が軽減されるなど多くのメリットがあります。

②気をつけたいこと

市販の鍋の素は塩分が多く含まれています。しめでよく煮詰まったスープにご飯や麺を入れて飲み干すと、1 食でほぼ 1 日分の量を摂ってしまいます。豆乳や昆布だしをベースにしたり、ゆず

や紅葉おろしなどの薬味で風味をプラスしてみてもいいかもしれません。

●代謝アップレシピ ～生姜豆乳鍋～

(材料・分量 (2 人分))

豚肉 200g、白菜 1/8 個、ニラ 1/2 束、しめじ 1/2 パック、豆腐 1/2 丁
(出汁) 豆乳 400ml、水 400ml、白だし大さじ 4、すりおろし生姜 20g



看護学校だより

地域に貢献する看護師として

新カリキュラム「地域の看護を知る」演習を終えて

姫路赤十字看護専門学校 藤元 由起子

看護師の役割は拡大し、病院以外の様々な場所で活躍することが期待されています。この演習は、地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを支援するために、地域で療養しながら暮らす人々を知り、看護が提供される多様な場を知ることが目的です。

11月13日～15日の3日間、一般企業、大学、クリニック、訪問看護・診療、助産院、ホームホスピス、介護医療院、地域包括支援センター、看護協会など32か所をグループに分かれて訪問しました。

学生は生き生きとした様子で、行われている活動に参

加したり、積極的にインタビューしたりすることができました。

どの職場においても看護師は、観察し、変化に気づき、対応していることや信頼関係を築いていること、そして多職種連携の大切さを学ぶことができました。

この演習を通して、その人が住み慣れた地域で、その人らしい暮らしができるように支えていくシステム、地域包括ケアシステムの一端を担える看護師に成長してくれることを期待しています。



兵庫県看護協会
兵庫県ナースセンター姫路支所
インタビューを終えて



姫路市役所健康福祉局保健所
こどもの未来健康支援センターでこどもの
視線を体験している様子



保健センターで、皆さんと一緒に
いきいき百歳体操！



相の会は、すべてのがん患者さんと
家族が対象の患者会です。

『相の会』のはじまり

「がんを生き抜くためには、同じ体験をした人との交流が必要。同じ悩みを持つ仲間と集まり、わきあいあい(相相)と過ごし、気持ちを楽にしながらと共感する力を持ちましょう!」と訴えかけた婦人科の患者さんの思いが始まりです。

現在の「相の会」

平成15年に発足し、当初は婦人科の患者さんのみが対象でしたが、他科の女性患者さん、男性患者さんと少しずつ対象を拡大し、現在は当院への受診の有無に関係なく「すべてのがん患者さんとその家族」を対象としています。

相の会で、自分の気持ちの「プラス変化」を感じてみませんか

私は相の会でお世話になって10年目になります。

当時の私は「再発の不安」の底にいました。

そんな中、相の会に参加し患者同士がお互いの気持ちを話し合い、共感し合ったことで、少しずつですが、私は「自分の不安と寄り添うこと」ができるようになりました。

そして今、何とか無事に暮らせています。

相の会のお蔭様です。

相の会では、前半は、メンバー各自が近況を歓談しながら、まずは心を穏やかにします。

後半では、「不安への対処」等のテーマを絞った話し合いを通して、各自の経験や気持ちを出し合っています。

同じ経験をしている者同士だからこそ、確かな共感が持てます。

そして、その共感の中から自分の気持ちに「プラス変化」が生まれて不安を和らげてくれます。

相の会は、お互いの気持ちを分かち合い、励まし合いそこで生まれた共感と「心のプラス変化」を継続してゆく場です。

不安はいつの日か必ず和らいでくれます。

相の会に参加して、そんな日を思いながら自分の気持ちの「プラス変化」と一緒に感じてみませんか。

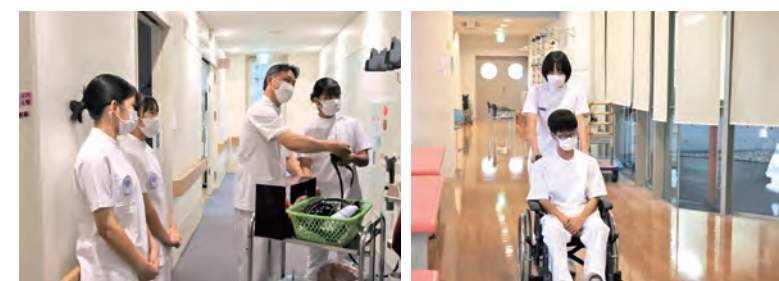
相の会メンバー 宮田 智司

「相の会」についてのご相談、ご質問等は総合相談支援課(079-294-2251代)
または相談支援センターで受け付けています。お気軽にどうぞ。



職業体験「トライやる・ウィーク」を行いました

令和5年11月6日から10日にかけて、トライやる・ウィークの中学2年生6名が当院で活動しました。様々な部署の仕事内容を学び、真剣に取り組む姿が見られました。実際に器具を触ったり、業務の一部を体験したりすることが特に印象に残ったようです。中には医療従事者を目指す生徒の方もあり、この経験が将来について考える機会になったことと思います。いつか当院の職員として共に働くことができる日を、職員一同楽しみにしております。



12月1日～25日は「NHK 海外たすけあい」キャンペーン



赤十字は、動いてる!

今、危機に瀕している1億人の命をつなぐために。

NHK 海外たすけあい 2023年12月1日(金)～12月25日(月)

12月1日～25日は「NHK 海外たすけあい」キャンペーン

日本赤十字社は毎年12月1日～25日に、NHKと共催で募金キャンペーン「NHK海外たすけあい」を実施しています。お寄せいただいた寄付は、世界中の紛争、災害、病気で苦しむ人々の支援に役立てられます。

